

のり海況速報 第7報 (23-7)

平成23年12月22日発行
千葉県水産総合研究センター
東京湾漁業研究所
千葉県農林水産技術会議

資料 のり海況調査 12/19：内湾(わかふさ)、12/20内房北部(わかふさ)
関東・東海海況速報、東京湾口海況図・ふさなみ航走水温データ(12/1-22)
拓南観測データ(11/1-12/22)
モニタリングポスト(12/19：国交省関東地方整備局)

【水温・塩分の状況】

内湾の表層水温(図1)はほぼ順調に降下し、ほぼ13~14℃台になっています。一方、11月下旬頃から小康状態であった沖合水は中旬頃に内房北部海域まで流入しましたが、ここに来て弱まり、現在、内房北部の表層水温はほぼ14~15℃台になっています。

しかし、東京湾口への沖合水の流入は依然継続しており、内房北部縦断面では(図2)浦賀水道航路入口付近の10m以深に水温16.5℃以上の水塊が沿岸に向かって湧昇し、また、内湾底層部(図1)にも水温16℃以上の水塊が流入していますので、この動きには十分な注意が必要です。

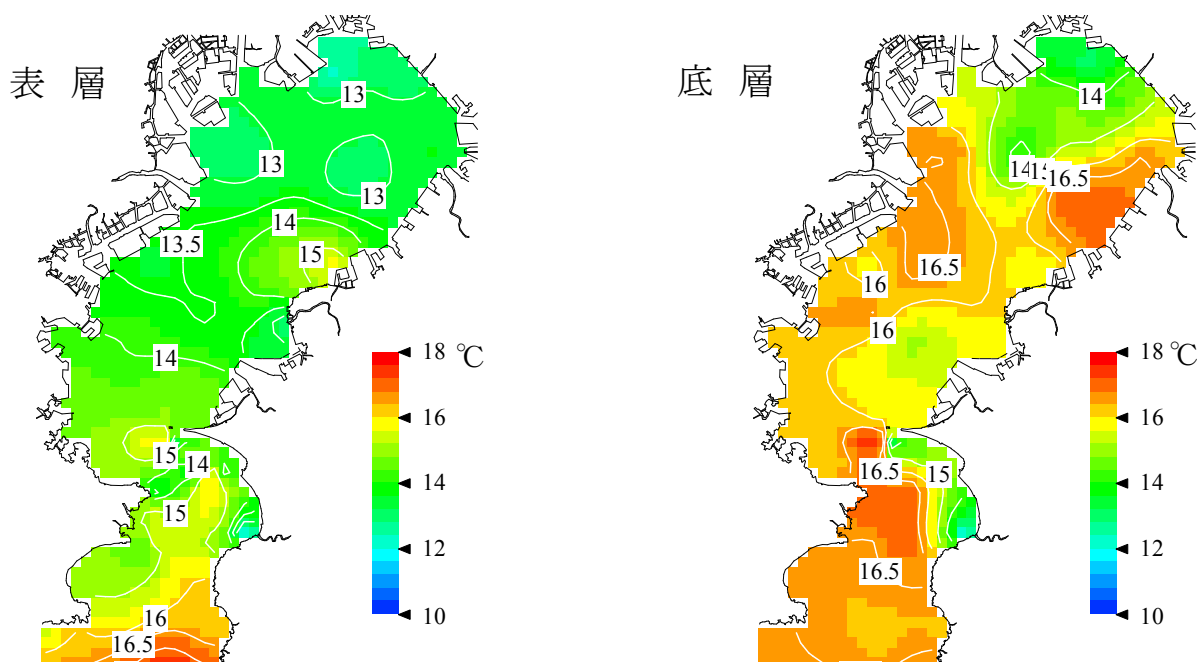


図1 表・底層の水温分布 (内湾～内房北部：平成23年12月19-20日)

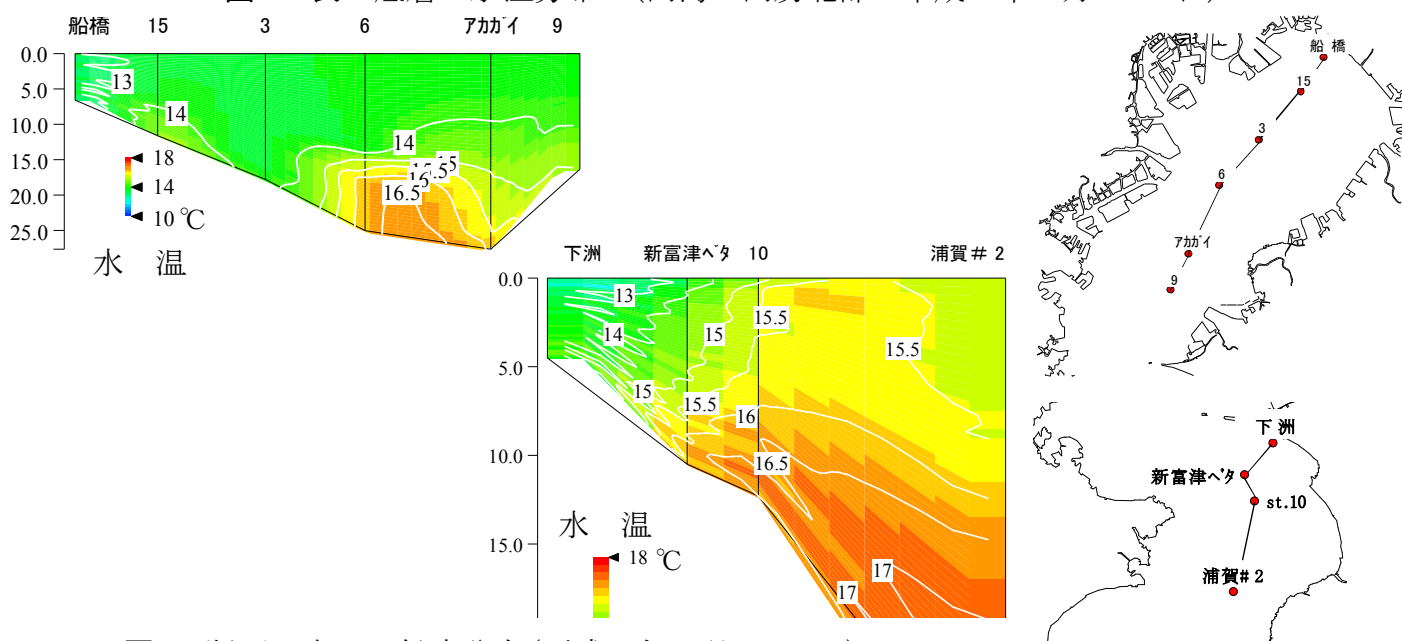


図2 断面の水温の鉛直分布(平成23年12月19-20日)

【赤潮・栄養塩の状況】

赤潮は引続き全域で発生していません。しかし、内湾ではここにきてキートケロスやスケルトネマなどの小型ケイ藻が多くなり始め、透明度は内湾北部海域で3m台とやや低下しています。水色も褐色を帯びてきています。

表層の栄養塩(図3)は窒素(DIN)・リン(DIP)とも全域で十分あり、各地先の栄養塩濃度(図4)もより養殖にとって問題ない濃度を示しています。

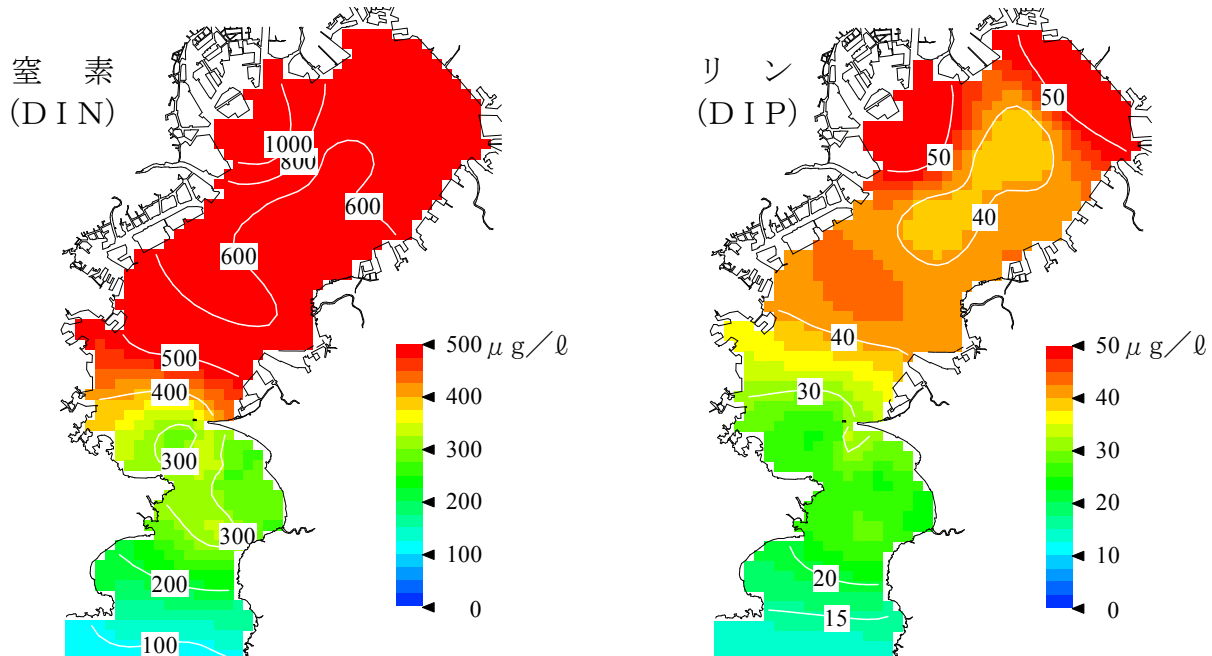


図3 表層の栄養塩濃度の分布 (内湾～内房北部：平成23年12月19-20日)

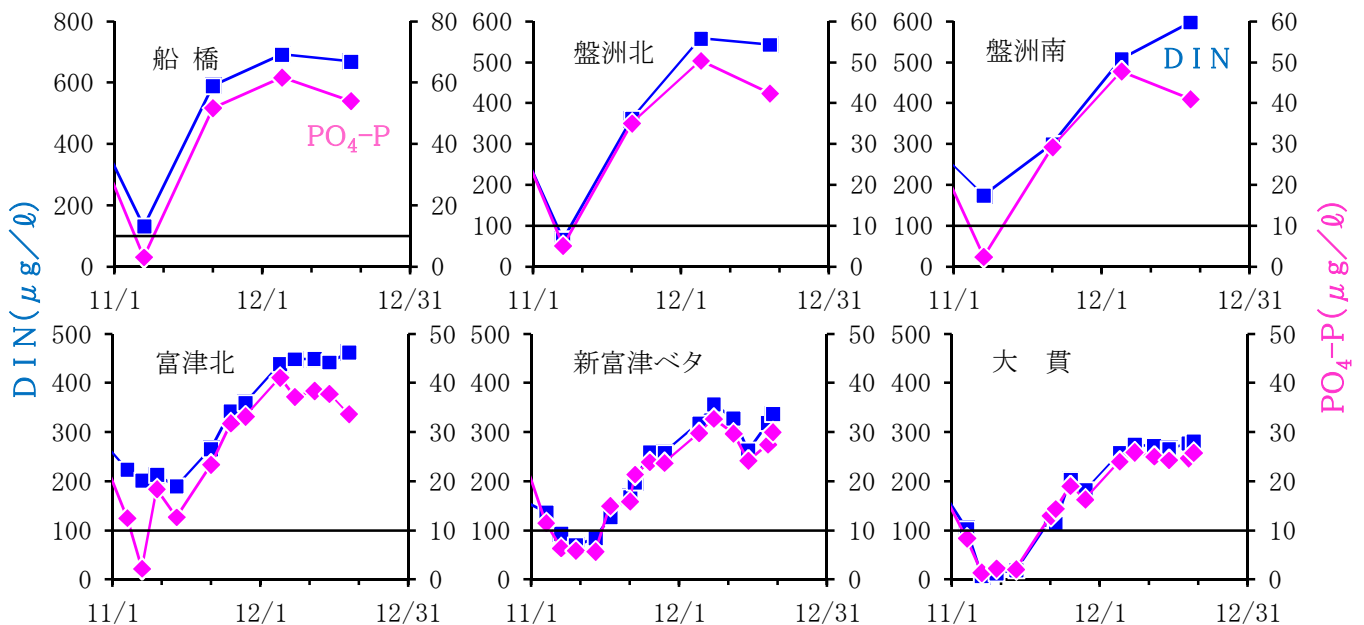


図4 各地先における栄養塩濃度の経過 (表層：平成23年11月1日～12月20日)
(図中の横線はノリの色落ちをひき起こすとされる目安の濃度)

り養殖場水温予報のお知らせ

今年も、各り養殖場(三番瀬、盤洲北部、盤洲南部、富津岬北、富津岬南)について、5日先まで表層水温を予報しています。パソコンまたは携帯の検索サイトで”り養殖場水温予報”で検索するか、下記アドレスを直接入力してご覧ください。

パソコン：http://wwwp.pref.chiba.lg.jp/pbcbisuishi/cbtk/04tk-yohou/main_frame.html

携帯：http://wwwp.pref.chiba.lg.jp/pbcbisuishi/cbtk/04tk-yohou/mobile_forecast.html